

道立栽培水産試験場改築管理研究棟主体1工区

藤川建設・東海建設・生田建設JV

とおつなと
大塚直人さん

一体感持ち地域への配慮も

現場を見つめる視線は一見穏やかだが、決して妥協を許さず、細部まで目を光らせている



現場所長の

1日

2

も大きな体を丸め、ごみ袋に吸い殻や空き缶などを集めていった。

その後の安全大会では、総勢八十人を前に「工事用車両の通行に関しては漁協さんからもお願いが来ているのでルールを守って。また、水揚げされたコンブを工事用道路のそばで干すので、通行の際は細心の注意を」と思いやりを持った作業を要請。地域への配慮を重視した姿勢を強く打ち出した。

これまで、公共民間問わず数多くの物件を手掛けてきた。「形に残る物をつくることは素晴らしいこと」と胸を張るが、「一面があるのだから、プロとしてその通りでやって当たり前。その過程で講じた安全対策も訴えなければ」。

持論は「前の現場で行った安全対策は次の現場では通用しない。安全とは技術同様、日々スキルアップしていくもの」。「建物が引き渡されるや安全は忘れ去られがちになるが、決して手を抜いてはいけないものなんだ」という視線には、プロとしてのプライドがあらわれている。

間もなく、親魚棟など本年度発注分の元請け施工者が大挙入場してくる。入場者も増えることから予期せぬ危険性も飛躍的に高まるだろう。本年度末までは、この新規参入業者も東海建設安全衛生責任者を兼ね、肩の荷が下りるのはしばらく先になりそうだ。

文、写真・池田 和隆記

る。事務所から現場までは約一時間離れており、作業員は車で移動するが、ただ一人「こうでもしないと振る機会がないからね」と朝から心地よい汗を流す。

取材当日は「涼しい所」

という室蘭のイメージを覆すような後天下が続く中の一。海に近いせいもあり、朝からかなりの湿度だ。

午前八時、いつも通り徒歩で現場へ到着。汗が乾かぬうちに行ったらラシオ体操の最中は、視線を絶えず協力業者の作業員に向け、体調不良の者がいないか目を光らせた。

工事事は二工区に分割されているが、電気などの設備は共通の業者が担当している。現在は隣接地で取水ろ過棟の建設も進んでおり、合わせると十一共同、三十一社が元請けで施工中。その統括安全衛生責任者という重責も背負う。

七月末現在の進捗は約率は五七・五％。管理研究棟は躯体が終わり、内装がメイン。発泡ウレタンの吹き付け作業やモルタル、サッシの組み立て作業が進められている。昨年九月に着工、工期は本年度末と長丁場だ。

ネットの設置状況など、施工面、安全面をくまなく見て回る。この日は転落防止用ネットに一部不備を発見、協力業者に対して改善を要請した。見て回れない時間帯も常駐部隊が現場におり、何かあった際にはすぐに携帯電話に連絡が飛んでくる。

基本方針は「風通しのよい職場環境づくり」。「協力業者を含めると相当数の作業員が入り込んでいるのだから、わたしの目の行き届かないところも彼らは見ている。生の声を積極的に聞き入れ、仕事面、安全面にプ

ケージの構築を図り、現場内に一体感を植え付けようという姿勢がその。現在、第二工区の常駐部隊は所長を含め三社から六人。「事務所にいる間は、必ず誰かが現場にいる。わたしが作業員と直接、話ができないときは彼らが聞いてくれており、これまではうまく機能していると思う」と、基本方針の実践状況に手応えを感じているようだ。

この日は、午後から全工区の元請け、協力業者が参加しての週例の清掃活動と月例の合同安全大会が行われた。清掃活動は、地域に密着した建設業をアピールするための取り組み。所長

室蘭市役所から車で五分、これからコンブの水揚げがピークを迎える道直漁港内に現場はあ

施工を進めているのは、道建設整備室が発注した水産試験場改築の施設だ。主

現場内は午前と午後の二回巡回。安全帯の着用状況や足場の設置、墜落防止用